

令和4年9月30日

# 二宮町教育委員会議録

( 定例会・臨時会 )

二宮町教育委員会

1 開会時間 9時 30分

2 閉会時間 11時 30分

3 教育長名 森 英夫

4 署名委員 藤原 直彦

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	野谷 悦
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	藤原 直彦
○	教育委員	渡辺 優子

6 出席者氏名

教育部長	椎野 文彦
教育総務課長	下條 博史
教育総務課長代理	田中 明夫
生涯学習課長代理	竹本 直昭
教育総務課指導班長	安藤 通晃
教育総務課教育総務班長	大木 健司
教育総務課教育総務班主査	添田 理代

7 傍聴者 0名

8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

## 1 開会宣言

(教育長) 令和4年度9月定例教育委員会議を開催します。

## 2 署名委員の氏名

藤原委員を指名する。

## 3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 9月政策会議結果報告、議会定例会報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(岡野委員) 両中学校の文化祭は伝統として、ステンドグラスを作成していると思います。伝統も大事ですが、子どもの発想を狭めてしまわないか気にかかります。

(教育総務課長代理) 文化祭の内容は、生徒の意見を聞いた上で、職員会議で決定します。以前、ステンドグラスだけでいいのか、制作物を変えてもいいのではないかと議論になりました。その結果、ステンドグラスではなく、教室内にモニュメントを展示したこともありましたが、しかし、翌年度以降は、生徒たちの話し合いの結果、続きませんでした。ステンドグラスは見栄えも良いため、改めて良さに気づいたのかもしれない。

(教育総務課長) ステンドグラスは、学年が上がるにつれて、どんどん秀逸になっていきます。同じものを比べられることで、成長過程が見えるため、上級生への憧れに繋がると感じています。校長会でも、教育委員さんからの意見を伝えていきます。

(岡野委員) 例えば、プロジェクションマッピングをしたら、子どもたちはどこまで発想できるのだろうか、体育祭であれば、スウェーデンリレーをドローン撮影したらどうなるかと思っています。今までとは違う不連続感があってもいいのではないかと思います。

(教育総務課長) プロジェクションマッピングは、学校の先生たちができるかどうかの問題です。

(岡野委員) きっかけと道具があれば、逆に、子どもたちの方ができると思います。やることで、色々な広がりを持つのではないかと思います。

(教育長) 文化祭は、作品制作以外には何がありますか。

(教育総務課長代理) 他には合唱があります。課長が言われたように、ステンドグラスも合唱も学年が上がるにつれて、白熱していく傾向はあります。

(教育長) 基本的には、生徒たちの意見を学校が受け止めて、改変するのであれば対応できる素地があればいいと思います。

(渡辺委員) 1点目は、二宮西中学校1年生の道徳授業が、発言したいという雰囲気があり、とても良かったとありました。今の1年生は、小学校6年生のときの体験もあると思いますが、2年生3年生と比べて、授業の質だけでなく、一色小学校からの生徒も一緒になっ

たことによるクラスの雰囲気など良いように変わっているのでしょうか。

2点目は、小中一貫教育について、当初はハード面の印象が強かったのですが、カリキュラムの統一や小中連携による交流などソフト面がとても充実しているのを感じています。しかし、ソフト面は地味に見えるのか、議会の総括質疑でもあったように、中々伝わっていないように感じます。『二宮町小中一貫教育だより』をホームページに公開していますが、いつ公開されるか分からないのに、わざわざホームページを見るのは、町民からしたら難しいと思います。Facebook などでも、発行のお知らせや小中一貫教育研究会の傍聴の案内を発信するなど、ソフト面の充実を発信してほしいと思います。

(教育総務課長代理) クラスの雰囲気は、とても良く、以前から先生が授業をして楽しい学年だと言っています。話し合いをする中で、様々な意見を受容する多様性が、自分自身を豊かにしていく、色々な意見を聞くことの楽しさに繋がる場所も理由の一つであると思います。研究授業は、地域政策課が取材をしていますので、広報紙で小中一貫教育の進捗状況の報告を検討しています。

(教育総務課長) 『二宮町小中一貫教育だより』だけでは、中々伝わらない部分もあるため、授業のことや先生の体験などを今後、広報していこうと考えています。

(教育長) 情報発信については、以前広報活動によって教育委員会の職員の業務を圧迫させてしまったことがあります。同じような規模の大磯町や葉山町と比べて職員数が少ない中で、小中一貫教育の講演会や意見交換会の準備をしています。広報専任職員の必要性を町長部局に伝えていきたいと思っています。

やまびこは不登校の子が通室するだけでなく、ケース会議の参加や家庭とも連携をとりながら、個別に対応しています。やまびこの活動について、中々広報をできない状況で、星槎学園と連携して校外学習などの活動も活発にしています。

(岡野委員) 小中の乗り入れ授業で図工の話はとても良く、先を気づくことが肝だと思っています。

(教育総務課長) 小学校で、中学の美術の先生から中学校で習うことだよ、と言われると、モチベーションが上がり、背伸びするような気持ちになります。中学校で待っていることを見せることができたこともそうですが、子どもたちが喜々としてやっている姿を見ると、とても良かったと思います。先に何が待っているというのは、カリキュラム研究の醍醐味で、中学校のカリキュラムを小学校の先生が知ったことだからこそできることですし、研究成果の一つです。

(指導班長) 今回は、中学校の美術の先生が、色相環を色水で作る授業は、思った以上に簡単で、子どもたちが楽しくやっていました。先を見るのとは逆で、むしろ下の学年に降ろした方が、もっと子どもたちの直感的な学びを今後の専門的な指導で生かしていけるのではないかという意見がきっかけでした。普段、授業離脱してしまうような子も率先してやっていた場面が見られました。簡単で分かりやすく楽しい、でも学びもしっかりしている活動を小学校でできたことは、とても大きなことでした。この活動は、高学年だけでなく、低

学年でやれば、絵画の着色指導で絶対に生かすことができると話題にもなりました。そういうことを積み重ねた子どもたちは中学校にいったとき、補色の関係をすぐにイメージができたり、デザインに生かしていけると思います。今回子どもたちは12色の色相環を作ることになっていましたが、それ以上に20色や30色などたくさんの色を作っていました。中学校の先生の専門的な見方だと、色相ではなく、彩度という円錐の中央部分をイメージするような感覚になります。子どもたちが、澱んだ色になっていくようなグラデーションを自然と高度なことをやり始めているのがすごい、というのが、中学校の先生の見方でした。芸術的な部分は、どう褒めるのか、どう認めるのか、というのが難しく、課題として挙がりました。自信に繋がるような、すごいと思えるような褒め方を先生が意識するといいいよね、と話題になりました。

#### 4 付議事項

##### (1) 議案第12号 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について

(教育総務課長) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について資料に基づいて説明

(岡野委員) 不登校には、勉強ができるため学校の授業がつまらないなど様々なタイプがあるので、義務教育でどこまでカバーに入るべきなのか根本のところには差しかかっているのではないかと思います。そうすると、不登校率を100%目指す意味は何なのかと問われていることになるので、今後どうするのか考える必要があります。

(教育総務課長) 一番の問題は、本人の居場所がないことです。学校が無理であれば、フリースクールなど色々な場所がある、と選択肢を示すこと、それも無理であれば、家庭に居場所があり、家庭で学ぶができるなど、各所と連携して子どもたちを支援してあげられるようにしていくことが、今できる最大限だと考えています。県のフリースクール協議会と学校が情報共有できる場を設けて、様々なセーフティーネットで繋がっていけるような仕組みを作っていくのが、第一歩と考えています。

(教育長) 国の施策も、一人一人の状況に応じた対応をすべきという考えに変わってきています。不登校やフリースクールなどであっても、子どもたちの学びが続くようにすることが大事だと思っています。それには、子ども一人一人の状況を把握する必要があります。学校との窓口を閉ざしてしまう方もいるので、どう対応していくのが必要になってきます。

(岡野委員) 日本は98%が公立小中学校、オランダは70%が私立小中学校と違いがあります。オランダの私立校は、学校ごとに特色があり、自分で行きたい学校を選びます。私立校といっても国の補助金があるため、お金は掛かりません。私立校の70%に合致しない場合、30%の公立校を選びます。仕組み自体が根本的に違うため、合う部分と合わない部分があると思いますので、今の日本の仕組みの中で、どこまで海外の事例に対応できるのかは検討する必要があります。

(藤原委員) 不登校を無くす必要はない、100%登校を目指すのはナンセンスだ、と言いつけてもいいと思います。目指すところは全員登校ではなく、繋がっているかどうかだと思います。何かあったときには、学校やフリースクールなどで相談ができないと、孤立してしまい、義務教育が届かなくなってしまう。

(教育長) 保護者にも教育を受けさせる義務があるということを共有するべきです。受け皿として、一人一人の状況に合わせた環境を整えていることも出していく必要があります。

(教育総務課長) 不登校率というネガティブな指標ではなく、学校が楽しいと感じる児童の率というポジティブな指標に転換するのも一つの案です。しかし、学校が楽しいと感じる児童の率というポジティブな指標は、学校に登校している児童だけの指標になってしまう問題もあります。ただ、不登校イコール良くないこと、という意識はさせたくはないと考えています。

(渡辺委員) 学校に登校はできないけれど、町には多様なコンテンツがあるので、学びは継続している、という方向が全体に広がっていければ、制度に繋がっていくと思います。

(岡野委員) 経済産業省の未来人材ビジョンでは、初等教育、高等教育に入っていきやすい、授業が楽しいと思える比率がどんどん下がっている傾向があります。ただ、本当につまらない単調な授業なのか、自分にマッチしないからそう感じているのか、その区別はまだついていないため、授業のクオリティそのものの評価ではない、と思います。そうすると、一人一人にどうマッチさせていくのかも、重要なポイントだと思います。45分間をみんなと同じペースで進んでいく授業自体が、マッチしない部分も出てきているのか、データを読み取ると感じつつあります。この会議では小中学校のことしか議論していませんが、例えば高校や大学がどうなっているのだろうか、企業の人材育成はどうなっているのだろうか、そういう視点も、未来人材ビジョンの中に組み込まれていて、ゆえに初等教育ではこのようなことをキーにして欲しい、という答申が経済産業省から出されています。過去では、2016年に発表された新産業構造ビジョンから学習指導要領に入ってきたのがプログラミングになります。今回の答申の中からも、将来学習指導要領に反映されていこう大事なキーワードが個別最適という言葉で、デジタル教科書という言葉も並んでいます。デジタル教科書は紙の教科書を画面で見られるだけではなく、子どもたちが画面の中のどこをたくさんタッチしたのか、どこが一番とどまっていた時間が長いのか、子どもたちの興味がどこにあるのかを把握することができます。将来は一人一人に対応したデジタル教科書が、配られる可能性もありますので、ICTとセットで考えていくのも一つの手だという事例も出ています。東京書籍と東北大学とつくば市の小中学校が、産官民の共同研究で、社会科で5年生6年生の子どもたちはどこに興味をもったか、子どもたちがタッチした場所はどこか、というログをとって調べているそうです。6年生は歴史の本文に興味を持つ、5年生は小さいコラムに興味を持つ、そういうきっかけを子どもたちにうまく調整することができたら、面白い授業が伝わっていくのではないかと、興味に対して応えていけるような授業ができるのではないかと感じます。不登校全体を眺めて、全く登校できない子もそうですが、少しは学校に行け

ている子も適用できるような道も探っていくことが必要なのではないかと感じます。

(野谷委員) 公立校であるがゆえのしがらみもあります。今は学校だけではなく、フリースクールなどとも連携を取っていかなければならないと思います。同時に小中一貫校を作っていく中で、ICT教育だけでなく、実体験に根差した教育も大事です。イエナプランも課題はありますが、検討していく必要もあるのかなと思っています。

(渡辺委員) 多様な子どもが増えている中で、多様な学びの提供を学校も考えてはいますが、今のシステムの中でやるには限界があります。例えば、イエナプランの異学年交流を今の制度の中でやるというのは、無理があると思います。根本的な教育システムを考え直すことに繋がっていかざるをえないのではないかと思います。

(教育長) イエナプランは、今の学校教育の中でできていることもあります。例えば、支援級は異学年と一緒に授業を受けています。他にも、異学年が縦割りのチームで行事することもあります。しかし、教科の中では難しく、特別活動が主になります。学校全体で縦割りが取り組むような時間設定を持っていかないといけないという気がします。

(岡野委員) 9月初めに国際連合から日本に特別支援級をなくすよう勧告を出しています。それに対して、文部科学省がどう答えるのかは分かりませんが、そのような勧告が出ている事実を考えると、世の中は特別支援級との壁を取り払ってほしい、ということだと思います。ただ、今の義務教育システムで、教員数も時間も限られている中で、どこまで対応できるのかというと、かなり難しい問題です。

(教育長) 支援級や支援学校をなくして、全て普通級となると、複数の教員が配置されないと無理です。支援が必要な子には、個々に支援をしないと将来の就労支援まで結びつきません。特別支援学校の教員配置は、1校あたり150人、通常が50人程度なので、約3倍の人件費がかかります。それだけの教員を配置しないと、子どもが育っていかない中、国ができるのかというと、無理だと思います。高校にインクルーシブ教育で入ってきた生徒は、支援級で過ごした子のなかでもトップレベルの子です。高校に入って、次は就職にどう結びつけるのか現場は必死な状況です。

(教育総務課長) インクルーシブ教育は、保護者の理解も育てないといけないと思っています。保護者も多様な子を受け入れる意識改革が必要です。

(教育長) 保護者から支援級に入れてほしい、という子どもが増えています。国の福祉支援が充実してきたことになります。例えば、療育手帳を取得することで、就労に結びつく、グループホームで生活することができるなど、国の支援が入ることが分かったので、無理をして普通級で過ごすより、支援級で個別特価した自立支援を学ぶことが大事だという保護者も増えてきていると思います。

(岡野委員) グレーゾーンで手帳がもらえない子が一番つらいかもしれないですね。

(野谷委員) 評価委員の意見を踏まえての意見になりますが、P44(5)教職員の働き方改革の推進で、時間外が年間184時間となっていますが、休憩時間が入っていないのはいいか、と考えています。勤務中の休憩時間はほとんどありませんので、それを踏まえると実

態はもっと厳しいのではないかと思います。(7) 学校ホームページや町ホームページ、広報紙等の積極的な活用では、担当者に過度な負担がかかってしまうため、解決策が必要です。P45 (2) 図書館事業の推進では、本とふれあうことは楽しいのですが、自分も高齢者となり、字が読みにくくなっているため、書籍の電子化や音声読み上げなどを検討していただきたいです。(3) コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動の促進では、地域と学校が協働活動に繋げていくために推進員が選ばれています。しかし、学校側の要望がなかなか出てこない、意見が出しきれていない、学校の困りごとに気づいていない、と考えられますので、地域の方が推進員というのは、限界があるのではないかと思います。

(教育総務課長) 地域学校協働活動には、各学校で色々な取り組みがあります。一番取り組みが早いのは、放課後子ども教室から派生して、色々な学習を見よう、ということです。既存の学校授業に推進員が参画していくスタイルの学校では、一緒にやってみたら、ここに地域の手があるといい、と気づいて広がっているようです。

(教育長) 委員に議案第12号について諮る。

委員全員賛成により、議案第12号は承認される。

## 5 報告・協議事項

### (1) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について(速報)

(指導班長) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について資料に基づいて説明。

(野谷委員) 学級経営の安定の問題で、一部の学校では、学級崩壊のような状態も反映しているのではないかと推測しています。今までの経験からすると、そういったことも含めて、一喜一憂することはないけれど、子どもたちに、ある程度の学力をつけてさせていないような状況もあるかな、という反省があります。

(教育長) 中学生は頑張っているのですが、小学校から中学校への過程で子どもの心の変化があるのか、思いを深めてもいいのかもしれません。

(岡野委員) 速報値では50点を割っている部分もありますが、子どもたちができなくなっているとは思えません。できる子とできない子と二極化しているのと、記述式の問題が増えたため無回答率が増えているのではないかと推測しています。最近では、答えだけでなく、理由を述べないといけないような例もあるので、その辺の分析をお願いします。

(教育長) 問題が読めない、読んでも意味がわかっていない、というのは、一番大きな問題です。

(岡野委員) 算数数学の国際リテラシーは、日本は常に一桁の順位ですが、読解力はこの5年くらいで急激に落ちています。そのため、問題が読めないために答えにたどり着けない、答えが分かっても説明ができない状態が起こりえます。



(教育長) 読解力でも、どこに力がないのか、細かなところを洗い出して、それに基づいた授業をしないといけないと考えています。リーディングスキルテストを導入して、読解力に注力していければと思っています。

(指導班長) 問題に行きつくまでの時間が長く、ある程度前提条件を理解した上で、答えなければなりません。1年に1回解くような問題のため、戸惑う子どもが今後も出てくるかと思っています。今度登録するMEXCBTは、全国学力の過去問題や他都道府県の類似問題のデータベースをダウンロードして解くことができるようになり、個別最適な学びを進めていく中での環境は整います。

(教育長) 他県でやっている全国学力学習対策はやめてほしいです。

(野谷委員) 得点の高い自治体の学校は、1～2月頃から過去問で対策をしています。

(教育長) 対策をするより、個別最適で子どもたちが楽しい学校を作っていけたらと思います。

## (2) 通学路の点検について

(教育総務課長) 通学路の点検について資料に基づいて説明。

## (3) 二宮町学校給食食材費高騰対応補助金交付要綱について

(教育総務班長) 二宮町学校給食食材費高騰対応補助金交付要綱について資料に基づいて説明。

(野谷委員) 申請書を記入して提出すると、時間もかかります。給食費の公会計化を進めていただければと思います。

(教育総務課長) 現在は、公会計化の制度設計を検討している最中です。

## (3) その他

### ー 次回教育委員会予定 ー

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11時30分 閉会